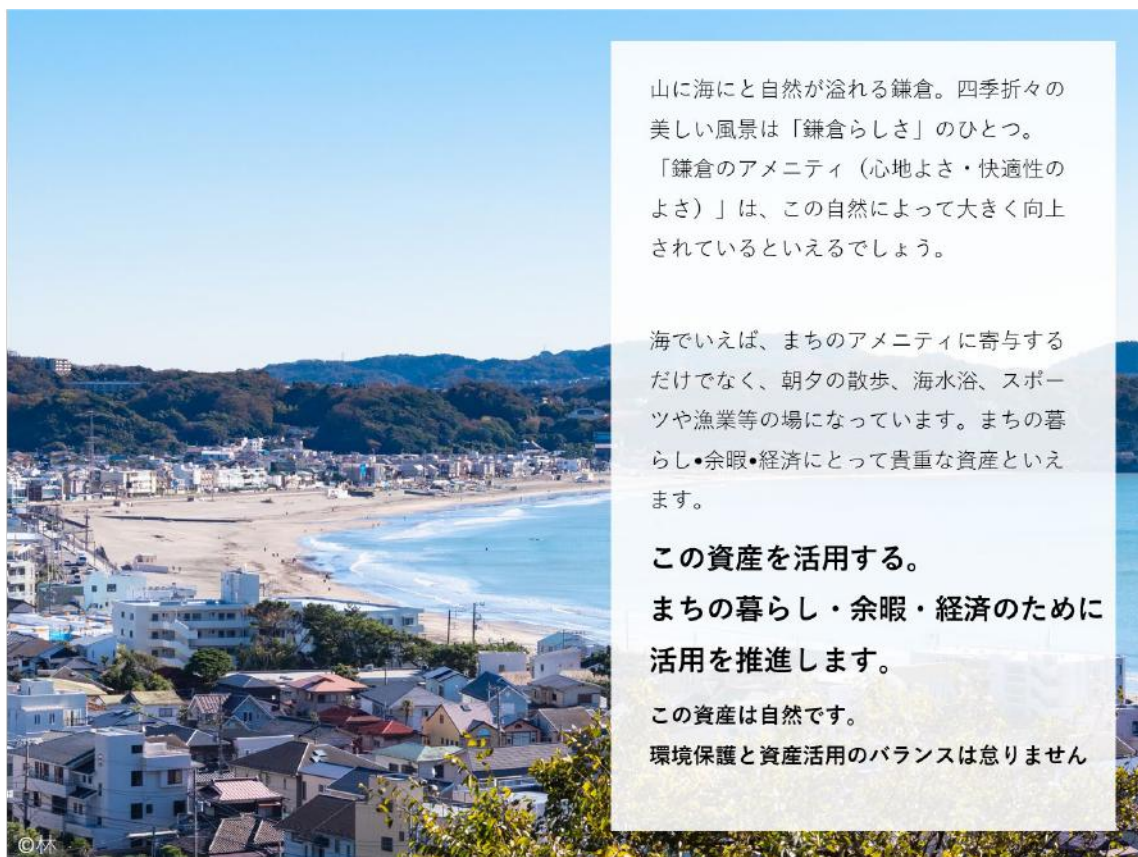


海を、まちの未来の資産となるように  
別角度や複眼的に見ていくという思いをもって...

# ミヅキカマクラブプロジェクト



山に海にと自然が溢れる鎌倉。四季折々の美しい風景は「鎌倉らしさ」のひとつ。

「鎌倉のアメニティ（心地よさ・快適性のよさ）」は、この自然によって大きく向上されているといえるでしょう。

海でいえば、まちのアメニティに寄与するだけでなく、朝夕の散歩、海水浴、スポーツや漁業等の場になっています。まちの暮らし・余暇・経済にとって貴重な資産といえます。

**この資産を活用する。**

**まちの暮らし・余暇・経済のために活用を推進します。**

この資産は自然です。

環境保護と資産活用のバランスは怠りません



# 現在、海で起こっていること

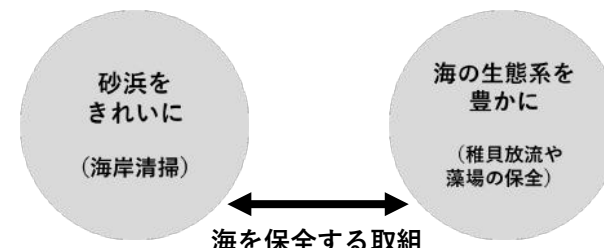
## 障害者の働く機会を創出

- ・ 障害者が海藻を回収
- ・ その海藻が豚の飼料に
- ・ 海藻パークとして販売



## 豊漁を祈願し集う賑わう

- ・ 年始、船おろしが実施
- ・ 大漁旗が浜になびく風情ある風景
- ・ 海にちなんだ神事あり



## (じつは) 豊かな漁場

- ・ 多品種の魚がとれる
- ・ 知る人ぞ知る魚も…



## 地元の食への接触機会を創出

- ・ 漁師さんが子供へ地元の魚について教える
- ・ 地引網の体験機会



## ビーチフェスタ、マリンスポーツ、憩いの場など

- ・ 季節の行事等の場
- ・ 市民活動の場
- ・ 散歩など憩いの場
- ・ コミュニティを育む



## 地元の方の食卓へ

- ・ 月一の朝市を開催 (4月～12月) ※夏場はお休み



## 砂浜の漁具倉庫は台風の被災をうけやすく、皆さんへ影響あり



平成29年10月、台風21号によって浜にある漁具倉庫の多くは崩壊、倉庫の破片が浜に飛散



砂浜からの漁船の出し入れには台車を利用 (一般的には港から出港) 波があると危険な作業に 実際、ケガを負った漁師さんも

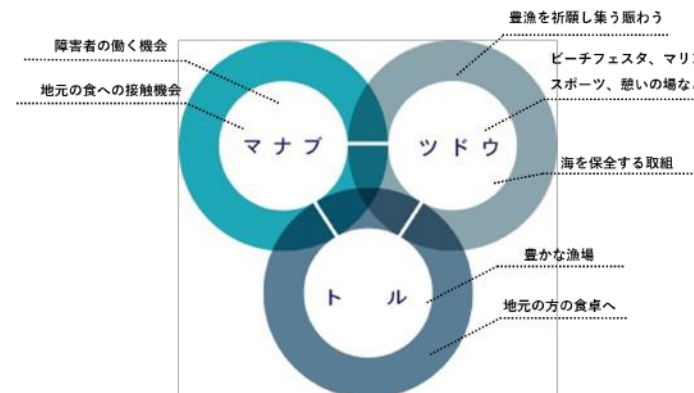
## これらの活動は、有志の個人・団体、漁師さんの活動によるところが大



未来へつなぐ無形資産として型化 (かたか) できる環境が必要

## コンセプト概念図

坂ノ下、海からマナブ・ツドウ・トルの拠点 市民のための複数の役割を担う漁業支援施設づくり



## ハードによってソフトを型化

例えば、拠点で安全に漁業が行える

出漁機会の増

拠点で朝市の開催

みなさまの食卓へ

また、砂浜の利用・安全が向上し、さらに集いやすく新たなソフト(活動)が生まれる

地引網や箱メガネで海の中見学など学びの場



## 拠点づくり (漁業支援施設イメージ)

## 浜のイメージ (現状→将来)

施設整備前



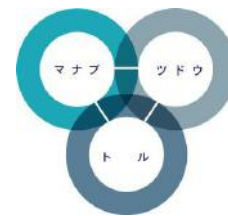
砂浜を分断しない場所 (海岸の端) 既存の構造物 (消波ブロック等) を活用



施設整備後



砂浜に点在していた漁具倉庫・漁船を一か所に集約 漁船の出入りと一般の利用者の交錯の危険性減



型化 (かたか) し、未来へつなぐ





## 漁業支援施設でできること

- ・ 砂浜にある小屋や漁船を坂ノ下の拠点に集約し、浜は広く安全に
- ・ 安全に船を出し入れできる施設で、朝市や漁業体験などを行い、にぎわいや学びの場を創出し、新鮮なお魚を食卓へ
- ・ 持続的な水産業で海の環境や生態系を保全

## 漁業支援施設の整備

- ・ みなさんの資産である海。周辺環境への影響を考慮して、必要最小限に
- ・ 事業費は15～20億円程度を想定（調査設計段階で変わる可能性があります）。国の補助事業などを活用し、市の財政負担の軽減を
- ・ これから約10年間での整備を目指します。来年度から行政手続きや詳細設計を進め、令和8年度頃に工事着手したいと考えています。